

1. MRSAについて

1. 原因及び感染経路

MRSAとはMethicillin Resistant Staphylococcus Aureusの頭文字をとった略称で、日本語では「メチシリン耐性黄色ぶどう球菌」と言います。

黄色ぶどう球菌は私達の体内で共存している常在菌でもあります。抗生物質を使用することで耐性を持ち、多くの抗生物質にも効かないので、“恐ろしい病原菌”とされています。

しかし、もともと黄色ぶどう球菌は弱毒菌で病原性の弱い菌であるため、このMRSAについても、健康な人でも皮膚、髪の毛、鼻の中、口の中に持っている場合もあり、身体についているからといって、それだけでは病気にはなりません。

MRSAは湿潤していて空気の流通の悪いところ、例えば鼻の穴や喉（空気の流通路）・陰部・床ずれなどによく付着しますので、その付着している個所、つまり鼻汁・痰・尿・床ずれの傷口などに直接触れることで感染します。

元気であれば菌が体内に入っても、通常1日～3日で死んでしまうといわれています。

2. ケアの具体的方法と注意

1. MRSAは病原性の弱い菌であることを理解して正しく接しましょう。
2. 「MRSA陽性」と聞いたら、どこの部位から検出されているのかを確認しましょう。その部位に直接触れる時（例えば痰からであれば口腔ケアをする、痰をふき取る、尿であればオムツ交換するなど）のみディスポーザブル手袋の装着が必要です。
3. 上記によりMRSA保菌者の隔離、専用エプロン、マスクの着用、床の粘着マットなどの使用は、不必要です。

※MRSAが検出されている部位の血液や体液（唾液・鼻汁・痰など）、傷口からの分泌液、および排泄物が飛び散る可能性のある時など、必要な場合もあります。

- ①入浴やシャワー浴介助・清拭・衣類交換など、身体の清潔に関するケアにおいては通常通りで、特別の対応は不要です。
- ②鼻腔や口腔ケアにおいては、鼻や痰からMRSA菌が検出されている場合のみディスポーザブル手袋を着用しますが、菌の検出がなければ通常通りです。
- ③排泄ケアについては、陰部や尿からMRSA菌が検出されている場合はディスポーザブル手袋を着用し、陰部洗浄や陰部清拭、オムツ交換をします。菌の検出がなければ通常通りです。
- ④食器は別々にする必要はなく、洗浄も通常通りで、家庭用洗剤で問題はありません。

- ⑤清掃、居間の換気などは通常通りで、特別にする必要はありません。
- ⑥マットレス、ふとんなどは最低1週間に1回は日光に干しましょう。
- ⑦鼻を拭いたティッシュやオムツなど、患部に触れたゴミは、ビニール袋に入れて捨ててください（焼却）。

3. 家族への説明

- ①家ではこまめに手洗いをする。MRSAが検出されている部位の血液や体液（唾液・鼻汁・痰など）、傷口からの分泌液、および排泄物がついた衣類は他に付着しないように注意をして取り扱うこと以外には感染対策を必要としません。
- ②たとえばMRSAが体内に入っても、健康であればほとんど問題にならないことを説明しましょう。

4. 介護者の安全対策

- ①基本は「手洗いとうがい」です。こまめに手洗いやうがいをしましょう。
ディスポーザブル手袋を使った後もしっかり手洗いをしましょう。
- ②身体の抵抗力や回復力を高めるために、
 - 食事をバランスよくきちんととりましょう。
 - 睡眠をよくとり、規則正しい生活をして健康を維持しましょう。
 - 過労や風邪を予防しましょう。

5. その他

未熟児や高齢者、悪性腫瘍などで免疫力の低下した人、手術後の患者などに感染すると肺炎や腸炎、敗血症、髄膜炎など重いMRSA感染症状がみられることがあります。これらは病院内であって、在宅においては小児や体力が極度に低下している人（高齢者を含む）以外、ほとんどその心配はありません。原因と感染経路および対応方法についての正しい知識を持って、不要な恐怖心を持たないように心がけましょう。

治療について

MRSAの保菌（菌を保有している状態で症状がない場合）だけでは、原則として全身的な除菌治療は行ないません。

MRSAによる症状が現れていて重度の場合は他の抗生物質の投与を行ないます。